

ていねの碑を訪ねて

その昔、新天地を求めて自らの意志で移り住んだ「自移民」により開拓が始められた手稲。厳しい自然と闘いながら先人たちの絶え間ない努力によって手稲は発展してきました。

現在でもその面影は、区内に残る石碑にみることができます。今回は、その一部をご紹介します。



各地の開拓記念碑

山口開基八十周年記念碑



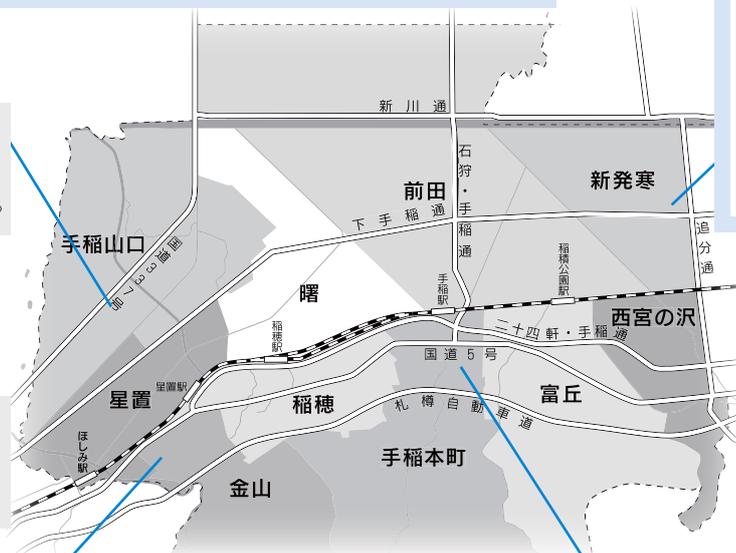
建立年：昭和35年(1960年)11月

山口は、明治14年(1881年)山口県人宮崎源治右衛門らが入植し、翌年山口村と称したのが始まりです。砂丘地と湿地が交じり合った土地柄に加え、温暖な地方出身の彼らにとって冬の寒さの中の開拓は困難の連続だったといえます。

手稲山口548 山口神社敷地内

※山口開基八十周年記念碑の横には山口開基百年記念碑もあります。

※星置開村記念碑の横には星置開基百年記念碑もあります。



発寒稲積開拓記念碑

建立年：昭和61年(1986年)9月

今も親しまれている稲積という通称は、明治35年(1902年)に稲積豊次郎が稲積農場を開いたことに由来しています。碑は、この地に入植した先人の苦勞をしのび建てられました。



新発寒5条1丁目
北発寒稲積会館横

※手稲開村五十年記念碑の横には手稲開村八十年記念碑もあります。

星置「開村記念碑」



建立年：大正2年(1913年)9月

明治17年(1884年)に入植した広島県人33戸を星置の開祖とし、それを記念し建てられた碑です。彼らは、山口地区と共に農耕を主体とする開発を進めました。

星置南1丁目
星置神社境内

手稲「開村五十年記念」碑



建立年：大正10年(1921年)9月

明治5年(1872年)1月、仙台伊達の支藩白石藩の三木勉らの入植をもって手稲村の開村としています。明治以前も移住者の記録は見られますが、その人たちが定住したかは定かではありません。

手稲本町3条1丁目
手稲コミュニティセンター付近